

事務事業名	飯田産業技術大学事業			会計	一般会計			
H27担当課等名	工業課	H27係等名	工業振興係	事業種別	政策	開始	12 終了	
基本計画上の位置づけ	政策	1	多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり					
	施策	12	未来を見据えた地域産業の魅力、強み、人材の強化					
目的	対象(誰・何を)	地元企業の従業員及び経営者			指標名及び単位		26年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	必要な技術及び経営管理能力を習得してもらい、企業の技術力向上と経営改善による体質強化することで、企業規模を拡大してもらいたい。			対象指標	工業統計による事業所従業員数(飯田下伊那地域)	15985	
	向上させたい上位施策の成果指標	既存事業者の出荷額(工業) 飯田下伊那(億円)				経営者数(飯伊地域)	503	
目標	種別	指標名及び単位		26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)
	成果指標	受講企業数		220	206	220	250	
	定性目標							
事業概要	<p>複数の大学や地元の専門校や職業高校、支援機関等から講師を招き、地元企業(主に製造業)の従業員、経営者を対象に基礎技術や経営管理能力を学ぶための各種講座を開催する。 平成20年度より情報産業人材育成事業も含め事業展開する。 平成20年度より研究開発の支援も行う。 平成25年度よりEMCシンポジウムも人材育成の一環であることから、飯田産業技術大学事業に統合した。</p>							
26年度事業内容	事業内容			名称		活動指標		
	1 大学・支援機関等と連携し、年間を通しての3分野の講座を実施する。 (1)技術講座(初級・中級・上級) (2)経営講座 (3)企業ニーズに沿った特別講座の開催 (4)特別講座として信州大学「特別な課程」1年コースの開講 2 研究開発の相談及び補助金等の申請手続き支援 3 協定を結んだ大学及び事業を行っている大学との定期的な情報交換 4 第15回EMCシンポジウムIIDA2014の開催 (1)EMC委員会の開催			1 延べ受講者数 2 開講講座(回数) 3 大学への訪問回数 4 (1)EMC委員会回数 (2)EMCシンポジウム参加者数		1 1,535人 2 36講座 3 1回 4 (1) 4回 (2) 110人		
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足		
事業費計(千円)①		2,700	2,700	2,700	2,700			
国庫支出金								
県支出金								
起債								
その他								
一般財源		2,700	2,700	2,700	2,700			
人件費計(千円)②		1,788		1,073				
正規職員所要時間		500		300				
臨時職員所要時間								
総事業費①+②		4,488	2,700	3,773	2,700			
事業内容・目標達成状況の振り返り	36講座(技術・経営・特別講座)を実施することができた。特に技術講座では、飯田技術専門校の汎用機械を有効活用し、外部講師による実践的な研修を行うことができた。また、信州大学による「特別な課程1年コース」を開講し、8名が修了することができた。							
改革改善の考え方	①問題点	講座により参加者数にばらつきがあり、参加者数の少ない講座は内容について検討する必要がある。また、EMCシンポジウムについては、地域外からの参加者が固定化している。						
	②改革提案	講座内容の検討については参加者アンケートのみならず、参加企業等のヒアリングにより要望を把握しながら事業運営に反映していきたい。また、EMCシンポジウムへの地域外からの参加者を増やすため、事前告知等PRに努めていきたい。						